

県美プレミアム 2016年 7. 2 ㊦ – 11. 6 ㊦

展示室 4

展示室 1

展示室 2

展示室 3

つなぐ × つつむ × つかむ
無視覚流鑑賞の極意

広瀬浩二郎プロデュース

美術の中のかたち 手で見る造形

時間を
ひらく

新収蔵品を中心に



1. やなぎみわ《案内嬢の部屋B 1》1997年

展示室 5 近現代の彫刻 / 安藤忠雄コーナー

小磯良平記念室

金山平三記念室

展示室 6 コレクションの逸品〜生と業のプロセス



「美術の中のかたち—手で見る造形」のみどころ

- 普段は目で見るだけの美術作品に、手で触って鑑賞する展覧会です。
- 全盲の文化人類学者・広瀬浩二郎さんによる「触るための音声解説」を聞きながら鑑賞します。
- 視覚を用いない新たな美術鑑賞の可能性を探るとともに、誰にでも備わる知覚の潜在力を引き出す試みです。

「時間をひらく—新収蔵品を中心に」のみどころ

- 佐伯祐三など近代洋画の名品から、やなぎみわなど現代作家による斬新な表現まで、2015年度以降、新たに当館のコレクションに加わった作品より約40点※を一堂にお披露目します。

※会期中、一部の作品を展示替えます〔前期8月28日（日）まで、後期8月30日（火）より〕。前・後期の各期ごとに約40点、両期を通じ総数約60点の新収蔵品を展示します。

- 新収蔵品のみならず、既存のコレクションからも絵画、写真、版画、立体など幅広いジャンルの名品を加え、作品の中の時間というテーマに沿って展示。日常とは異なる、美術作品ならではの特別な時間を味わっていただく機会を提供します。

そのほか（p.6参照）のみどころ

- 神戸ゆかりの洋画家、金山平三と小磯良平の代表作をはじめ、当館所蔵品のハイライトもあわせてご覧いただけます。

県美プレミアム

兵庫県立美術館は、前身の近代美術館時代から数えて約45年にわたり収集活動を続けてきました。現在9,000点を超える作品を収蔵しており、それらはこれまでの収集方針を反映して、国内外の近代彫刻と版画、日本近代の名作、兵庫ゆかりの作品、関西の現代美術に大別されるとしても、内容は実に多岐にわたり、一瞥しただけではその総体をとらえきれません。そこで、当館では、1年を3期に区切り、個々に展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介し、変化ある常設展示室の演出を心がけています。

開催情報

会期

2016年7月2日〔土〕—11月6日〔日〕

休館日：月曜日

（ただし7月18日〔月・祝〕、9月19日〔月・祝〕、10月10日〔月・祝〕は開館。7月19日〔火〕、9月20日〔火〕、10月11日〔火〕は休館。）

開館時間：午前10時—午後6時

特別展開催中の金・土曜日は夜間開館
（午後8時まで）

※入場は閉館の30分前まで

会場：兵庫県立美術館 常設展示室（1階・2階）

観覧料

- 団体料金 …… 20名以上の料金
- セット料金 …… 特別展とのセット割引料金
- ※ 65歳以上は一般料金の半額
- ※ 障がいのある方とその介護の方1名は無料

観覧料	当日	団体	セット
一般	510円	410円	306円
大学生	410円	330円	246円
高校生	260円	210円	156円
中学生		無料	

「時間をひらく—新収蔵品を中心に」開催趣旨

兵庫県立美術館では、9,000点を超える収蔵作品を、1年をⅢ期に区切り、テーマを設けて紹介しています。2016年度第Ⅱ期は、作品の中のさまざまな時間というテーマで、昨年度以降、新たに当館のコレクションに加わった作品群を中心に構成します。

たとえば昔の肖像画を見て、まるで目の前にその人がいるように思えたことや、あるいは時間を越えた永遠の存在であるかのごとく感じられたことはありませんか。どうやら美術作品には、日常とは全く違った時間がぎゅっと詰まっているようです。そしてその時間は、誰かが作品を見るたびに、見る人の中にひらかれるのだとも言えるでしょう。

展示の核となるのは、2015年度から2016年度にかけて、新たに当館所蔵品となった作品群です。すでに当館のコレクションとして長い時を歩んできた作品も織り交ぜ、時間をめぐる5つのキーワードに沿ってご紹介します。

しばし日常を離れ、美術作品がひらく特別な時間の体験をお楽しみください。

※会期中、一部の作品を展示替えします [前期 8月28日(日)まで、後期 8月30日(火)より]

展示室 1

展示室 2

展示室 3

時間をひらく

—新収蔵品を中心に—

展覧会構成

※展示予定作品のうち太字は新収蔵品です。

※展示予定作品・点数は都合により変更することがあります。

1 まちの時間、ひとの時間

遠い昔から今に伝わる建物を描いた油彩画や、かつての神戸の風景を捉えた写真や絵画など、まちとそこに生きる人々の過ごした時間を感じさせる作品を紹介します。

展示予定作品・点数：**佐伯祐三**《**タラスコンの遺跡**》、小松益喜《元居留地風景》、**田淵銀芳**・椎原保・安井仲治《**流氓ユダヤ**》など 絵画・写真 14点



2. 佐伯祐三《タラスコンの遺跡》1925年

2 時間よ、止まれ!?

眼前の一瞬を凍結しイメージに留めるという写真の特性を生かした作品や、そのような写真的表現に通じる絵画作品により構成します。

展示予定作品・点数：木下佳通代《UNTITLED》、やなぎみわ《案内嬢の部屋B1》、阿部合成《見送る人々》など 絵画・写真9点



3. 田淵銀芳〈流氓ユダヤ〉より《男》1941年
(2012年プリント)

3 封じられた時間、放たれる時間

ものやかたちの内部に時間を封じ込め、そして見る人の世界に開放するような立体の表現を中心に、関連する版画・素描もあわせて展示します。

展示予定作品・点数：今村輝久《封じられた時限3》、植松奎二《コーナーピースI：倒置—垂直の場》、河口龍夫《COSMOS - Orion (オリオン座)》など立体・写真・版画20点



4. 今村輝久《封じられた時限3》1981年

4 めぐる時間

うつろう四季の空気感を捉えた絵画作品に始まり、人間や生きものの営みなどより抽象的な時の循環を感じさせる作品まで、絵の中に渦巻きめぐる時間をご覧ください。

展示予定作品・点数：青山熊治《早春》、小出楯重《春に向かう風景》、三谷十糸子《椅子による》、小幡正雄《結婚式》、ジョアン・ミロ《暁の環》など絵画・版画34点



5. 青山熊治《早春》1930年

うごめ
5 蠢く時間

イメージや文字がびっしりと描きこまれた平面作品など、人間の内面に蠢くような、深く広い時間を感じさせる表現に焦点をあてます。

展示予定作品・点数：坂上チユキ〈博物誌〉、内藤絹子《祈りの言葉 2004.12》、福岡道雄《何もすることがない》など平面・版画 23 点



6. 坂上チユキ〈博物誌〉より《古代魚の眩き》2010年
(後期展示)

関連イベント

・ミュージアムボランティアによるガイドツアー
会期中の金・土・日 13:00～(約45分)
エントランスに集合 参加無料(要観覧券・定員なし)

・学芸員によるギャラリートーク
7月2日(土) [時間をひらく]、9月3日(土) [小磯・金山記念室]、
10月1日(土) [コレクションの逸品]
いずれも 16:00～(約40分)
参加無料(要観覧券・定員なし)

・こどものイベント「夏休みスペシャル 2016」
7月30日(土)、31日(日)
受付場所：アトリエ2
対象：こども優先・入退場自由・先着順
※混雑時に入場制限することがあります。
申込み・問合せ先：(078) 262-0908 こどもプログラム係

「のりちゃん先生の夏休みの工作相談室」
時間：11:00～15:00(受付10:45～14:30)
参加費：無料

「つないでつないで・・・あっち向いて、キャップ！」
時間：11:00～16:00(受付10:45～15:30)
参加費：無料

ファクトリー
「屋下がりのバッジ工場」
時間：14:00～16:00(受付13:45～15:30)
※材料がなくなり次第終了します。
参加費：100円～300円

「展示室でわいわいわい」
時間：30(土) 14:00～14:30
31(日) 11:00～11:30
(受付は開始時刻の15分前から)
参加費：中学生以下は無料
申込不要・先着順(5家族程度)
※高校生以上の方がご一緒される場合は別途観覧料
(団体料金)が必要です。

展示室 5 近現代の彫刻 / 安藤忠雄コーナー

当館の収集の柱のひとつである彫刻から、西洋近現代の作品を展示します。また、当館の設計者である建築家・安藤忠雄の関西でのプロジェクトを模型、写真、映像などで紹介するコーナーを併設します。

展示予定作品・点数：オーギュスト・ロダン《オルフェウス》など彫刻 15点

小磯良平記念室

金山平三記念室

神戸出身のふたりの洋画の巨匠を顕彰する記念室です。小磯良平記念室では、2015年度新規収蔵された作品を含めてご紹介いたします。当館と広島現代美術館で開催予定の「1945年±5年 激動と復興の時代 時代を生きぬいた作品」展への作品貸出のため、《斉唱》(1941年)は10月中旬以降の展示予定です。

展示予定作品・点数：小磯良平《中禅寺湖》など小磯作品 16点、金山作品 15点



7. 金山平三《秋の庭》1909年

展示室 6 コレクションの逸品^{せい わざ}へ生と業のプロセス

「生」(生きること)と「業」(行為)をテーマに据え、人間の表現・創造的行為の意味を再考します。近現代の人間像、風景、オブジェにみる、作家の身体・思考・技術・行為といった多様な制作プロセスの様相・痕跡を読み解き、「生」と「業」の本質を問いかけます。

展示予定作品・点数：村上華岳《秋の山》(前期展示)、橋本関雪《山陰訪雪図》(後期展示)など絵画・版画・工芸・彫刻およそ40点(展示替含む)



8. 橋本関雪《山陰訪雪図》1916年



「美術の中のかたち—手で見る造形」開催趣旨

1989年に始まった「美術の中のかたち—手で見る造形」展。作品に触れることで、視覚に障がいをもつ人々に広く作品鑑賞の機会を提供し、また視覚に偏りがちな美術鑑賞のあり方を問い直すことを目指した当館の恒例企画です。

27回目となる今年は、全盲の文化人類学者・広瀬浩二郎さん（国立民族学博物館准教授）の声によるガイドで、視覚を使わずに作品を鑑賞します。「無視覚流」とは、視覚障がい者の美術鑑賞の疑似体験ではなく、触覚、さらには全身の感覚を総動員して作品を「みる」行為です。広瀬さんとともに手を伸ばし、作品にじっくり触れてみましょう。あなたの手のひらから、「目に見えない」作品の魅力を探る新しい美術鑑賞が始まります。

広瀬浩二郎氏 略歴

自称「座頭市流フィールドワーカー」、または「琵琶を持たない琵琶法師」。

1967年、東京都生まれ。13歳の時に失明。筑波大学附属盲学校から京都大学に進学。2000年、同大学院にて文学博士号取得。専門は日本宗教史、触文化論。01年より国立民族学博物館に勤務。現在は民族文化研究部・准教授。「ユニバーサル・ミュージアム」（誰もが楽しめる博物館）の実践的研究に取り組み、“さわる”をテーマとする各種イベントを全国で企画・実施している。

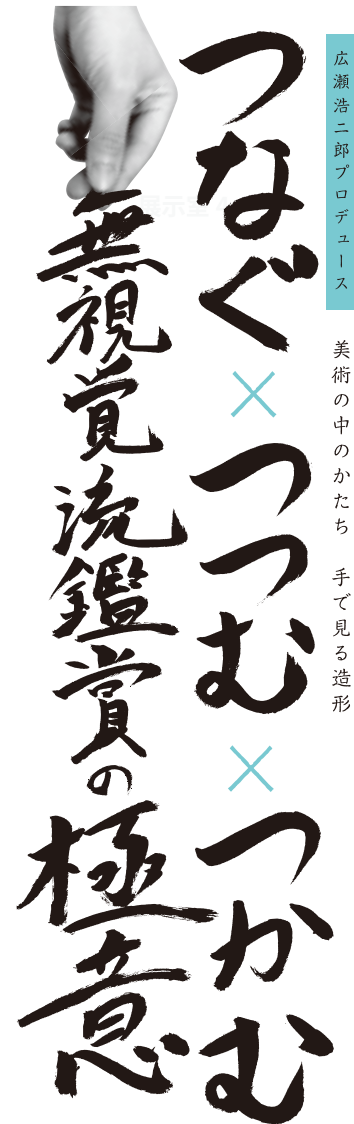
主な著書に『さわる文化への招待』（世界思想社）、『身体でみる異文化』（臨川書店）、『さわって楽しむ博物館』（編著、青弓社）、『知のバリアフリー』（共編著、京都大学学術出版会）などがある。また、これまでに民博では「さわる文字、さわる世界—触文化が創りだすユニバーサル・ミュージアム」（2006年）、「点字の考案者ルイ・ブライユ生誕200年記念…点天展…」（2009年）などの企画展を担当。

本企画の予告動画の配信

広瀬浩二郎さんによる声のガイドの一部を聴くことができる予告動画をYouTubeで配信しています。併せてご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=_ObeXIWXbsw

※当館ホームページでも配信中



キーワード説明

つなぐ：パズルを組み立てる創造力
 （手を上下・左右・前後にゆっくり動かし、点を線、面、立体へと拡げて、作品の全体像を頭で描く）

つつむ：者・物が重なり一体化する感応力
 （手を作品の上に優しく置き、さわる人、さわられる物が持つ熱の相互作用、主体・客体の区別がなくなる境地を心で楽しむ）

つかむ：目に見えない部分をとらえる洞察力
 （制作者の思いを想像しつつ、手をダイナミックに動かし、下から上、内から外へと流れる作品のエネルギーを体で味わう）

関連イベント

◇ワークショップ①「触る感動、動く触感——触角人間になろう！」

講師：広瀬浩二郎氏

7月23日（土）10：30～（約90分）

会場：アトリエ2

参加無料

対象：大人（中学生以上）

要事前申込（定員20名）：申込方法の詳細は美術館のHPをご覧ください

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」支援事業

◇ワークショップ②

こどものイベント「テでさわる、カラダがさわる、ココロにさわる」

講師：広瀬浩二郎氏

8月6日（土）10：30～（約90分）

会場：アトリエ2

参加費：400円（税込）

対象：小学生（※小学1・2年生は保護者の同伴をお願いします）

要事前申込（定員20名）：こどものイベント係（tel.078-262-0908）にお電話ください。7月6日（水）10:00より受け付けます。

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」支援事業

◇講演会「人生の触り方——『無視覚流』の極意を求めて」

講師：広瀬浩二郎氏

9月19日（月・祝）15：00～（約90分）

会場：レクチャールーム

参加無料（定員100名）

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」支援事業

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL: 078-262-0901（代表） FAX: 078-262-0903

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905（グループ直通） FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

小企画 美術の中のかたち一手で見る造形

担当学芸員：河田亜也子

e-mail: kawada@artm.pref.hyogo.jp

特集 時間をひらく—新収蔵品を中心に

担当学芸員：江上ゆか

e-mail: egami@artm.pref.hyogo.jp

いずれも、TEL: 078-262-0909（学芸直通） FAX: 078-262-0913

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

小磯良平の作品画像を使用される場合には、別途、著作権処理が必要となります。詳細はお問い合わせください。

同時開催の展覧会

特別展

「生誕130年記念 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画—」

7月16日（土）—9月22日（木・祝）

2016県展

8月6日（土）—8月21日（日）

特別展

「世界遺産 ポンペイの壁画展」

10月15日（土）—12月25日（日）

注目作家紹介プログラム チャンネル7

「高橋耕平展」(仮称)

10月15日（土）—11月20日（日）

横尾忠則現代美術館での同時開催*

横尾忠則「わたしのポップと戦争」

4月16日（土）—7月18日（月・祝）

「ヨコオ・マニアリスム vol.1」

8月6日（土）—11月27日（日）

※特別展又は県美プレミアムのチケット（半券可）のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。
（詳細はホームページなどでご覧ください）

交通案内

阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分

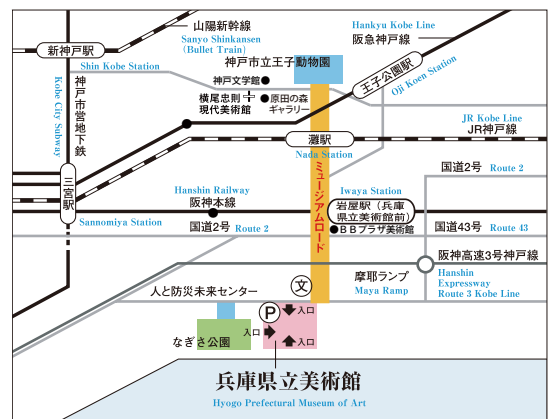
阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分

神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場：乗用車80台収容・有料

※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

※団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



《小企画》美術の中のかたち—手で見る造形 つなぐ×つつむ×つかむ：無視覚流鑑賞の極意
 《特集》時間をひらく—新収蔵品を中心に

2016年7月2日（土）－11月6日（日）

広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年 など
1	やなぎみわ《案内嬢の部屋B1》1997年
2	佐伯祐三《タラスコンの遺跡》1925年
3	田淵銀芳〈流氓ユダヤ〉より《男》1941年（2012年プリント）
4	今村輝久《封じられた時限3》1981年
5	青山熊治《早春》1930年
6	坂上テュキ〈博物誌〉より《古代魚の眩き》2010年
7	金山平三《秋の庭》1909年
8	橋本閑雪《山陰訪雪図》1916年
9	「美術の中のかたち」展 展覧会名ロゴタイプ

- ※上記作品画像を媒体掲載される際には、記載の**作家名・作品名・制作年**などを必ず入れてください。
- ※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。
- ※画像データ使用は、**本展覧会の紹介用のみ**とさせていただきます。それ以外での使用はできません。（会期終了まで）
- ※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- ※Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
- ※基本情報、図版使用の確認のため、**ゲラ刷り・原稿の段階**で営業・広報グループまでお送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ	『	』
	TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券（最大5組10名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです）		組	名分希望

- ※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URLなどを、**上記営業・広報宛にお送り**くださいますようお願いいたします。
- ※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。